

平成27年度名古屋市立大学看護実践教育モデル事業の活動報告

名古屋市立大学看護実践教育モデル検討委員会：

委員長 縦 野 香 苗（名古屋市立大学看護学部）
堀 田 法 子（名古屋市立大学看護学部）
脇 本 寛 子（名古屋市立大学看護学部）
平 岡 翠（名古屋市立大学病院看護部）
水 野 千枝子（名古屋市立大学病院看護部）

I はじめに

名古屋市立大学看護実践教育モデルは、名古屋市立大学看護学部と名古屋市立大学病院看護部が協働で行う、ユニフィケーション事業である。本モデルの目的は、名古屋市立大学看護学部と名古屋市立大学病院看護部が協働し、理論と実践の融合を図り、エビデンスに基づいた質の高い臨床看護実践ができる人材および地域住民の健康支援に貢献できる人材を輩出することである。目的を達成するために、「卒業時の臨床看護実践能力の質の向上を図る」「大学教育から現任教育への継続教育の発展に繋げる」「臨床上の問題を科学的に探求する」「地域住民の健康を促進する」という4つの目標を掲げている。今回は、平成27年度の事業の実績と今後の課題を報告する。

II 平成27年度事業報告

前記した4つの目標達成に向けて、平成27年度は3事業「演習指導者の運用」「新人・中堅看護師の現任教育への参画」「地域住民の健康を促進する」を運用した。

1. 演習指導者の運用

この事業は、目標「卒業時の臨床看護実践能力の質の向上を図る」に対応するものであり、平成27年度は学部専門科目6科目において、演習指導者のべ40名（表1）を配置することができた。

科目責任者による評価および学生アンケートの内容として、「実際の臨床現場を意識して看護技術の習得に臨むことができた」「現場で働いている臨床の看護師から指導を受ける事で、よりリアルな感覚をもって演習に取り組むことができた」「演習している看護技術が臨床現場で実際どのように患者に適用されているのか理解が深まっていた」などがあり、演習指導者を配置する意義が十分に達成されていた。

演習指導を行った看護師は、今年度は看護主任が担当

したこともあり、実施後のアンケートでは、ほとんどの担当者が役割を理解し、その役割を果たすことができた」と回答している。ただ、「担当するグループが多かったことで、学生が悩んでいる時にすぐに対応できなかった」との意見から、十分役割を果たせなかったと感じている指導者もいた。

演習指導者は、今回の演習指導を通して、臨床での学生指導や新人教育、指導の方法などについて今後に活かせる良い機会になったと回答しており、今後の継続教育に効果的であったと考えられる。

昨年度の課題であった日程調整については、今年度は師長と担当者の両者に書類を配布したこともあり、大きな混乱はみられなかったが、事前打ち合わせの日程調整については、早目に実施する必要がある。

2. 新人・中堅看護師の現任教育への参画

この事業は、目標「大学教育から現任教育への継続教育の発展に繋げる」に対応するものであり、平成27年度は看護部研修のうち、6つの研修において、看護学部教員のべ10名が参画した（表2）。具体的な達成目標として、看護部と看護学部が協働することで、新人・中堅看護師教育では、リアリテショックの緩和、適応力の向上、アセスメント力の向上が、教育担当者と臨床指導者への教育では、指導力の向上、リーダーシップの向上が挙げられる。

新人フォローアップ研修では、看護学部教員がグループワークにオブザーバーとして参加した。今回初めての参加であったが、グループワークに参加した教員にとっては、卒業した学生の元気な様子に触れる機会となった。また、新卒者のできるようになったこと（業務に関わらず、先輩との関係の結び方など）をグループメンバーと共有することは、ポジティブな側面に気づく機会となり職場への適応力を向上させると感じた。看護部と教員とのカンファレンスでは、コミュニケーションスキルを高

める教育を学生時代に工夫する必要性が話題となった。指導者研修Ⅰでは今後臨床実習指導者を担当する予定の看護職員に対し、「基礎看護教育の中での臨床実習の位置づけ」について講義を実施した。研修後アンケートでは、講義内容が理解できたかの設問に対し、回答した者の中「理解できた」51%、「やや理解できた」46%と、概ね理解されていた。意見・感想としては「学生の時には意識していなかった臨床実習で学ぶ内容や目標を改めて理解することができた」「学生目線の目標を明確にして指導していきたい」などがあり、効果的な講義であったと評価する。

指導者研修Ⅱでは「成人教育」についての講義を実施した。研修後アンケートでは、講義内容が理解できたかの問いに対し、回答した者の中「理解できた」58%、「やや理解できた」42%と、概ね理解されていた。意見・感想としては「ペタゴジーとアンドラゴジーの概念を分かりやすく教えていただけた。指導する相手に合わせ、指導方法を工夫してみようと思った」「他の指導するスタッフへも伝えたい」などがあり、効果的な講義であったと評価する。

マネジメント研修Ⅱでは、「組織マネジメント」についての講義を実施した。講義内容は非常に分かりやすく、研修担当の看護師長にとっても学ぶ機会となり、効果的であったと評価する。

3. さくらやま知っとこ！セミナーの開催

この事業は、目標「地域住民の健康を促進する」に対応するものであり、平成27年度から活動を開始し、本年度は外来棟1階において2回開催した（表3）。第1回の内容は感染予防をテーマに「咳エチケットと適切なマスクの着用」と患者からのニーズが高い「心臓発作・脳卒中を予防するために」とした。セミナー開催後アンケートを実施し、第1回目は53名から回答が得られた。セミナーの分かりやすさについては、85%が「そう思う」、9%が「ややそう思う」、未回答5%であった。今後役に立ちそうかという質問に対しては、「そう思う」が83%であり、「ややそう思う」15%、未回答2%であった。自由回答の記述では「今まで知らなかったことも多くて有意義だった」「自分の健康状態に気を配る良いきっかけになった」「マスクのつけ方が間違っていたことが分かった」等の感想があり満足度および有用性については高い評価であった。今回のセミナーをどこで知ったかという質問に対し、「掲示ポスター」が54%、「その他（通りがかり等）」が28%、「院内放送」15%の順に多く、「チラシ」や「ホームページ」については、それぞれ8%、4%と少なかった。

第2回の知っとこセミナーは、生活支援として「腸スッ

キリ！便秘予防の食事術」「ぐっすり眠れる睡眠のコツ」の2つをテーマとした。2回目のセミナー終了後アンケートを行い70名から回答を得た。セミナーの分かりやすさについては、「そう思う」79%、「ややそう思う」13%、未回答8%であった。今後役に立ちそうかという質問に対しては「そう思う」70%、「ややそう思う」23%、未回答7%であった。自由回答の記述からも「情報が溢れているがその整理がきちんとできた」「さっそく心がけてみたい」等の感想があり、1回目同様セミナーに対する満足度や有用性は高いことが示された。今回のセミナーをどこで知ったかという質問には、「院内放送」40%、「掲示ポスター」33%、「その他（通りがかり等）」19%の順であり、受診当日院内放送やポスターでセミナー開催を知り、参加された方が多いことが分かった。

Ⅲ. 今後の課題

演習指導者の運用は、学生への教育効果および満足度ともに高いことから、演習指導者の意義が十分に達成されており、継続して推進していきたい。

新人・中堅看護師の現任教育への参画は、新人フォローアップ研修については、今後とも積極的に進めていくこととする。中堅看護師の現任教育は効果的であることから継続して実施したい。課題としては、担当者同士が直接打ち合わせをすることができなかったため、事前に講義内容の打ち合わせを行い、より研修目標が達成できるよう調整していく必要がある。

平成27年度から活動を開始した「さくらやま知っとこ！セミナー」は、好評であり、次年度はさらに機会を拡大して3回の開催を予定している。名市大病院を受診されている地域の方々の健康支援のために、継続的に実施していくことが重要である。

平成27年度は、目標「臨床上の問題を科学的に探求する」に対応する共同研究を推進することができなかった。今後は、共同研究が推進できるよう、事業の展開方法について検討する。

今後もジェネラリスト育成のために、看護学部と看護部がより一層協働し事業を推し進めていきたい。

表1 演習指導者

科目名	演習内容	日時	担当者
看護援助論IA	ベッドメイキング	10/7(3、4限)	7階北 浅井可奈子 10階南 清水 万倭
	安楽な姿勢(ポジショニング)	10/21(3、4限)	17階 浅野 茂美 13階北 野口恵美子
	臥床患者のリネン交換	10/28(3、4限)	15階北 谷口 陽子 13階南 関 亜也子
	バイタルサイン測定 バイタルサイン測定の実技試験	11/18(3、4限) 12/9(3、4限)	救急 寺澤 涼子 ICU 丸谷 幸子
	寝衣交換・足浴	12/2(3、4限)	15階南 加藤 大貴 12階北 木下 英里
	洗髪・清拭	1/6(3、4限)	14階北 酒井ゆかり 12階南 神原 照美
		1/13(3、4限)	14階南 加藤 敦子 11階北 渡邊なり子
看護援助論IB	消化器系／筋骨格系のアセスメント	6/5(3、4限)	16階北 安藤 未央 12階北 木下 英里
	呼吸器系／循環器のアセスメント	6/12(3、4限)	ICU 丸谷 幸子 14階北 酒井ゆかり
	車椅子・ストレッチャーによる移乗・移送	6/26(3、4限)	14階南 加藤 敦子 13階北 野口恵美子
	便器・尿器を使用した排泄の援助	7/3(3、4限)	13階南 関 亜也子 救急 新里美由紀
看護援助論IC	点滴静脈内注射	6/3(1、2限)	16階南 田中 恵美 15階北 谷口 陽子
	皮下注射・筋肉内注射・直腸内与薬	6/17(1、2限)	17階 瀧澤起世子 11階北 渡邊なり子
	浣腸	10/5(3、4限)	16階北 安藤 未央 16階南 田中 恵美
	導尿	10/19(3、4限)	11階南 眞野 裕子 OP 岡田 悠揮
看護援助論Ⅲ	小児のバイタルサイン測定	11/26(3限)	9階 亀山 敦史 教育 吉田 佳代
	妊娠期・分娩期のフィジカルアセスメント	12/10(3、4限)	8階北 若林加菜子 8階南 石川 美江
生涯発達看護援助論Ⅰ	沐浴	6/23(3、4限)	8階北 若林加菜子
	新生児のフィジカルアセスメント	7/14(3、4限)	8階南 石川 美江
生涯発達看護援助論Ⅱ	輸液ポンプとシリンジポンプの操作	6/24(3、4限)	9階 亀山 敦史 NICU 西尾 貴子

表2 看護部研修

研修名	研修目的	対象者	講義担当
フォローアップ研修Ⅰ	目的：職業人としての自己管理ができる	1年目職員 (97名)	グループワークオブザーバー がん・慢性看護学 准教授・池田由紀 成育保健看護学 准教授・山口孝子 日時：7/13、16(13:40～14:25)
フォローアップ研修Ⅱ	目的：職業人としての自己管理ができる	1年目職員 (97名)	グループワークオブザーバー 精神看護学 准教授・宮城純子 (10/29,30) 地域保健看護学 教授・門間晶子(10/29) 成育保健看護学 教授・堀田法子(10/30) 日時：10/29、10/30 (13:50～16:00)
フォローアップ研修Ⅲ	目的：職業人としての自己管理ができる	1年目職員 (95名)	グループワークオブザーバー 成育保健看護学 准教授・山口孝子 地域保健看護学 講師・山口知香枝 日時：3/3、3/4 (13:05～14:20)
指導者研修Ⅰ	目的：1. 人材育成能力を養うことができる 2. 人を育てることで、喜びを感じることができる	ラダーレベルⅠ 認定済み職員 (90名)	講義：「基礎看護教育の中での臨床実習の位置づけ」 講師：感染予防看護学 准教授・脇本寛子 日時：7/14 (8:50～9:35, 13:35～14:20)
指導者研修Ⅱ	目的：1. 人材育成能力を養うことができる 2. 人を育てることで、喜びを感じることができる	ラダーレベルⅡ 認定済み職員 (44名)	講義：「成人教育」 講師：がん看護慢性看護学 准教授・安東由佳子 日時：9/14(13:20～14:05)
マネジメント研修Ⅱ	目的：部署および組織の目標を達成するために、自己の役割を果たすことができる	ラダーレベルⅡ 認定済み職員 (25名)	講義：「組織マネジメント」 講師：看護マネジメント学 准教授・金子さゆり 日時：2/5(11:00～12:00)

表3 さくらやま知っとこ！セミナー

回	開催日	テーマ	担当者	開催時間	参加人数
1	10/15	咳エチケットと適切なマスクの着用	看護学部 脇本寛子	10:00～10:30 12:30～13:00	計27名
		心臓発作・脳卒中を予防するために	看護部 平原広登	10:40～11:10 13:10～13:40	計35名
2	1/25	腸スッキリ！便秘予防の食事術	看護学部 縦野香苗	10:00～10:30 12:30～13:00	計39名
		ぐっすり眠れる睡眠のコツ	看護部 石田恵津子 服部幸子	10:40～11:10 13:10～13:40	計35名



「咳エチケットと適切なマスクの着用」の様子



「心臓発作・脳卒中を予防するために」の様子



「腸スッキリ！便秘予防の食事術」の様子



「ぐっすり眠れる睡眠のコツ」の様子